

# つながりあって、子どもを守り育てる

～with コロナの時代における子どもとの関わり方を学ぶ～

山口市立潟上中学校 原田 紹子

## I. 目的

本サークルは、平成25年度に萩市で発足したサークルである。萩市内外から養護教諭が集まり、『ミツバチのように、萩に集まった養護教諭が研修で得た知識を各学校へ持ち帰り、子どもたちに還元したい』という想いのもと、研修に取り組んでいる。参加者は、養護教諭として県内で働いており、日々、保健室で様々な健康課題を抱えた児童生徒たちと関わっている。昨年度の研修の中で、「感染症対策のため、マスクを着用していることでお互いの表情が分かりにくく、保健室来室者との信頼関係の構築が難しい状況が続いている」ということが課題として挙げられた。そこで、今年度は、メンバー同士の体験や、復伝を通して学び合ったり、先輩養護教諭や臨床心理士の先生を招聘したりし、with コロナの時代を踏まえて、改めて「子どもとの関わり方」について学びを深めることとした。

## II. 活動の概要

### 1 講演会の実施

#### (1) 講師 萩市立須佐中学校 米原 裕子先生

演題「子どもとの関わり方について」

令和5年8月4日 先輩養護教諭 米原先生を講師に招き、養護教諭として35年間勤務された間に関わった子どもたちとの事例を交えながら、「子どもとの関わり方」について学んだ。米原先生は、「小規模校」や「大規模校」、「小学校」や「中学校」と、様々な学校で勤務されており、参加者の抱えている悩みや、迷いに共感しながら、具体的な話をしてくださり、参加者にとって、学びの深い一日となった。米原先生の講話の中で、「子どもの受け取り方は本当に、一人ひとり違う。自分の言葉の重さを実感した」との言葉があり、保健室に来室する児童生徒は「何か」を養護教諭に期待しているということ、その「何か」について、バイタルサインや日頃の生活習慣（態度）だけでなく、表情や声などから丁寧に見取り、一人ひとりに対応することの大切さを実感した。



(2) 講師 臨床心理士 押江 隆先生

演題「PCAGIP 法による事例検討会」

令和5年11月11日 山口大学 准教授 押江 隆先生を講師に招き、養護教諭が日頃、校内で子どもたちと関わる中で、疑問に感じていること、不安に思っていることなどを出し合い、PCAGIP（ピカジップ）法を用いて、事例検討を行った。

事例提供者の養護教諭は、「保健室で子どもたちと関わる中で、無我夢中で動いていたが、校内体制や職員との関わり方を客観的に見つめることができ、自分の抱える「困った感」を整理することができた」と感じており、参加者も「ぶんぶん椿塾でも、PCAGIP 法を用いた事例検討会をしていきたい」と感想を述べていた。PCAGIP 法を初めて経験する養護教諭が多い中、押江先生は、ファシリテーターとして参加され、参加者の素直な思いを引き出してくださったおかげで、事例提供者だけでなく、参加者にとっても、学びが深い会となった。



(3) 講師 萩市立椿東小学校 教諭 大野 康子先生

演題「養護教諭と共に学ぶ子どもとの関わり」

令和6年2月3日 萩市立椿東小学校の校内コーディネーターである大野先生を講師に招き、養護教諭と共に支援の必要な子にどう関わっていけばいいのか、自身の経験を交えながらお話しいただいた。大野先生は、近年、発達障害の診断がつかないのに、発達障害と見分けのつかない症候を示している状態の児童が増加していることを危惧されており、各校で、養護教諭が中心となって取り組んでいる『早寝・早起き・朝ごはん・運動』が、落ち着いて学習にむかうための大切な基盤であると話されていた。養護教諭として、自分たちが取り組んでいることが大切だと評価され、改めて、組織として管理職、教職員の理解を得ながら『早寝・早起き・朝ごはん・運動』の活動を推進していくことが大切だと、多くの参加者が実感した。また、特別支援に繋ぐときの校内連携、保護者対応のポイントなども分かり、学びの多い時間となった。



## 2 定例学習会の実施

毎月第2土曜日の9:00～12:00とし、年間計画をもとに実施した。

開催日	研修内容
4月22日(土)	健康相談活動学会 復伝
6月10日(土)	子どもとの関わり方①
7月22日(土)	子どもとの関わり方②
8月4日(金)	先輩養護教諭 米原 裕子先生に学ぶ
	異校種 保健室訪問 萩市立多摩小学校
10月12日(土)	長期研修 健康相談 復伝
11月11日(土)	臨床心理士 押江 隆先生に学ぶ
12月10日(日)	2学期の振り返り・フラワーアレンジメント
1月13日(土)	子どもとの関わり方③
2月3日(土)	特別支援コーディネーター 大野 康子先生に学ぶ
3月11日(土)	本年度の振り返り・来年度の計画

定例学習会では、養護教諭の職務の基本となる研修内容とし、事例検討会を中心に実施した。「明日、実践にうつせる学び」をめざし、先輩養護教諭である吉松文子先生の指導、助言を受けた。

長期研修に参加した内田 貴義先生の復伝では、養護教諭がコーディネーターとして多くの関係機関や専門家と繋がることの大切さや、その役割や特性を引き出し、効果的に機能するための調整力が必要であることを、その実践報告を通して学ぶことができた。コロナ禍で、様々な活動や、外部との交流ができない期間が長かったが、内田先生の復伝から、養護教諭の専門性のひとつとして、「コーディネーターとしての役割」がとても重要であることを再確認することができた。

また、各校の養護教諭の取組を学ぶ中で、一人職である養護教諭が抱える課題や、心理的負担なども共有することができた。養護教諭が健康的に職場で働くことが、子どもたちが安心して過ごせることにも繋がっていると考え、そのためにも、養護教諭自身のメンタルヘルスもとても重要であることが分かった。

## III. 研修の成果と今後の課題

今年度の研修を終え、参加者の事例や感想から、「新型コロナウイルス感染症が感染症法第5類に移行し、学校行事や校外活動も制限なく行われていく中で、うまく学級になじめない子や、マスクが外せない子など、コロナ禍の影響が現場には未だに残っている」ことが分かった。養護教諭が保健室来室者の不安定な心に寄り添うためのメソッドなど、子どもとの関わりをより丁寧に行うための研修を引き続き、計画、実施していきたい。

また、今年度は、新規採用者や、経験の浅い養護教諭が抱える課題や、悩みを中心に事

例検討、情報交換を行った。ひとり職である養護教諭（参加者）が、つながり合いながら続いてきた本サークルを、今後も、「新規採用の養護教諭が気軽に相談できる場」、「学びを深める場」、「心のよりどころとなる場」として大切にしていきたい。

最後に、本年度も、山口県教育会の助成金のおかげで実りある研修を行うことができたことを、深く感謝したい。

